

変化を検討した岡本 (2001a; 2001b) は、1970年代までの歴史教科書が日系人についての情報を限定的にしか掲載していなかったこと、1980年代からは2世がアメリカ国民であることを前面に押し出しながら教科書記述の充実が図られたこと、そして1990年代には市民的正義を根拠とした強制収容の批判がなされるようになったことを析出した。1950年代以降の教科書の特徴を時代縦断的に整理した高濱賢もやはり、「今や、アメリカ人の子供たちは中学・高校では日系人の強制収容について、はっきりと誤りであったことを授業で学んでおり、それが当たり前のことになっている」(2003: 92) とする。教科書記述には、第二次世界大戦後の捉え直しが反映されているのである。また、高濱の作業からは真珠湾攻撃に関する記述について、以下のことが指摘できるという。

1960年代から2000年に至るアメリカの教科書を検証してわかることは、われわれ日本人が想像するほど真珠湾について一方的ではない点だ。毎年12月8日になると、アメリカのメディアは真珠湾攻撃で負傷しながらも助かった元水兵たちの話を取り上げては、「リメンバー・パールハーバー」気運を高めている。その一方で、出版界ではロバート・スティネットの『Day of Deceit (真珠湾の真実)』のように、未発掘の極秘資料をもとに「ルーズベルトは真珠湾攻撃を事前に知っていたが防ごうとしなかった」と主張するような本も出てくる。……こうした真珠湾をめぐる論争が、アメリカの教科書や授業に反映していることは間違いない。(高濱 2003: 34)

高濱がここで指摘しているのは、アメリカの歴史教科書が1つの事象を様々な角度から表現し、多面的な歴史像を描く可能性をもったものだということである。そこで本研究が問いたいのは、20世紀末までのこうした傾向の延長線上にある2000年代の教科書では、記述がいかなる状態にあるのかということである。より具体的

には、同時多発テロ以降の国家安全保障策に関しても異見が掲載されているのか、また第二次世界大戦中の日系人の処遇についても両論併記的に異なる見解が表明されるのか、という点が問題となる。そのため、岡本 (2001b) と高濱 (2003) の研究で取り上げられた教科書資料のうち、1990年代から2000年代にかけても改訂を繰り返しながら刊行され続けている10点を、今回の検討対象に定めた(稿末の「教科書資料」一覧に旧版⇒新版の順で表示している)。

さらに、2000年代のアメリカ歴史教科書については、その全体的な特徴をいち早く総括した大島享子による以下の指摘が参考になる。

2002年から使われているアメリカ史の教科書には既に2001年9月の同時多発テロのことを記述しているものが数種類あり、起こった事実を客観的に数行で記述しているものから多いもので6頁にわたって記述している教科書がありました。内容はテロによる破壊の事実経過、救出状況、大統領の声明、国民の対応、経済への影響、武力制裁、テロの原因などが中心で、なかには文化的・民族的相違の無理解、不寛容にふれているものや、「アメリカ国家」の本質について述べているものもありました。共通していたのは、アメリカをはじめ世界が難題に直面しているという内容でした。(大島 2003: 250)

ここからは、テロとそれ以降の状況について、早い時期から教科書にも情報が掲載されていたことが分かる。本研究では以下の3つの検討箇所を定めてそれらの情報を整理し、2000年代教科書に表現される「国家安全保障」と「市民的自由」の関連の論理を分析する。

- ①同時多発テロ後のメディアで支配的であった真珠湾攻撃と9.11テロを類比する説明は、歴史教科書にも浸透しているのか。
- ②愛国者法制定から国土安全保障省設置までに至る国家安全保障のための施策は、どのように表現されているのか。

③第二次世界大戦中の日系人の強制収容に関して、2000年代教科書の記述はテロ以前の旧版からどのように変化したのか。

4. 2000年代教科書における「国家安全保障」と「市民的自由」に関する記述

(1) 概略

前節で確定した検討箇所を探索すべく、本研究では10点の教科書の該当部分についてストーリーライン分析を行った。検討箇所①～③の記述の状態を教科書ごとに表現すると、下表ようになる。表中の●は、該当する記述が存在することを示している。

まず①については、真珠湾攻撃と9.11を直接に類比したものは教科書10点のうち1点しか存在しなかった。このことから、メディアで支配的であった(9.11テロのメタファーとしての真珠湾攻撃)という認識枠組みは、教科書においてはほとんど採用されていないことを指摘できる。

次に②については、「愛国者法制定から国

土安全保障省設立までの一連の説明」は全ての教科書に存在し、加えて、「国家安全保障に対し、市民的自由の面から批判があること」も全ての教科書が記述していた。ただしその批判の内容の充実度については教科書ごとに差があり、批判が存在するという点を単に言明しただけのもの、その批判の根拠を詳述するものと傾向が分かれた。後者のものは必然的に、「9.11テロ以後、市民的自由を侵害された者への言及」を含んでいた。

最後に③については、日系人の強制収容を説明する記述自体は2000年代においても全ての教科書にも存在し、テロ以前の旧版からテロ以後の新版への移行に際しては、基本的に旧版の記述を継承しつつ表現の変更や一部の削除・加筆をしているというものが多かった。「9.11テロ以後の状況を第二次世界大戦中の日系人と関連付けた説明」は、中学校向けの教科書が何らかの形で進んでいるのに対し、高校以上向けの教科書では行われないう差を指摘できる。

表 2000年代教科書における「国家安全保障」と「市民的自由」に関する記述

		①			②		③
		真珠湾攻撃と9.11テロの類比	愛国者法から国土安全保障省までの一連の説明	国家安全保障に対し、市民的自由の面から批判があること	9.11テロ以後、市民的自由を侵害された者への言及	9.11テロ以後の状況を第二次大戦中の日系人と関連付けた説明	第二次大戦中の日系人に関する記述の、旧版からの変化の種別
(第7～9学年向け)	<i>American Nation (Boyer)</i>		●	●	●	●	旧版と同文脈で表現は変更、ノーマン・ミネタの「愛国心を表す言葉」が削除。
	<i>The American Nation (Davidson)</i>	●		●		●	旧版と同文脈で表現は変更。第二次大戦時の日系人以外の集団の市民的自由の侵害を追加。「マンザナー」を上げられた2頁が削除。
(第10～12学年向け)	<i>The American Pageant</i>		●	●	●		旧版の記述を継承。日系人(モニカ・ソネ)の回想を追加。
	<i>The Americans</i>		●	●	●		旧版と同文脈で表現は変更。父ブッシュ大統領の謝罪の手紙の引用が削除。日系人の抑留の要不要を考へさせる囲み記事が削除。日系人が起こした訴訟について2頁追加。
	<i>American Odyssey</i>		●	●			旧版と同文脈で表現は変更
	<i>A History of the United States</i>		●	●			旧版の記述を継承。
(高校1級～大学教養向け)	<i>Making America</i>		●	●	●		旧版と同文脈で表現は変更。「よき戦争」についての記述を追加。
	<i>Nation of Nations</i>		●	●	●		旧版の記述をほぼそのまま継承。
	<i>The American People</i>		●	●	●		旧版の記述をほぼそのまま継承。
	<i>A People and a Nation</i>		●	●	●		強制収容に関する記述が大幅に改変。とくに導入部を刷新。